

† 自国の誇示と技術が競演する博覧会 †

博覧会の歴史は古く、起源は紀元前とオリンピックよりも古い。紀元前のエジプトでは国王の即位祝典行事として芸術品が披露されたり、古代ローマでは戦利品を民衆に披露されたりしていた。このように最新の技術や貴重なモノを博覧するイベントが進化して現代の万国博覧会の形になった(図1)。

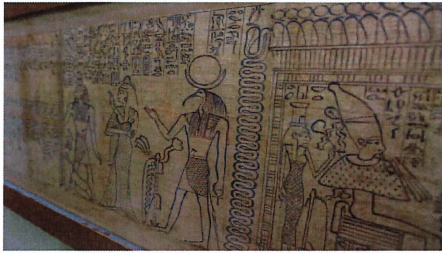


図1. エジプトの博覧会

1798年、産業革命をリードするイギリスに迫ったためフランス革命の時期のパリで初めて開催(図2)、1849年までにパリで11回開催され、徐々に規模が拡大、同様の博覧会が各国で開催されるようになり、1851年第1回国際博覧会がロンドンで開催された(図3)。

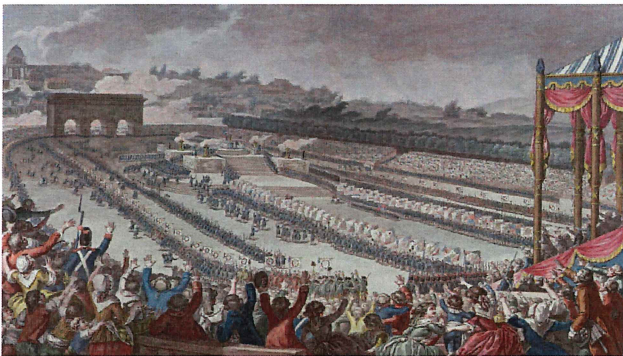


図2. パリ国内博覧会



図3. クリスタル・パレスの外観と内装

「ロンドン万博」は産業革命の象徴として、イギリスの技術力と文化的影響力を示すイベントとなり、その最も印象的な特徴の1つが、会場となった「クリスタル・パレス」であった(図3)。当時の最先端技術を駆使し、鉄とガラスを大量に使用した革新的なデザインで世界中の注目を集めた。

ロンドン万博では“エレベータ”が初めて展示され大反響をもち、604万人が来場した(図4)。



図4. 世界初のエレベータ

第1回ロンドン万博の大成功に触発されたアメリカが1853年、第2回ニューヨーク万博を開催。ロンドン万博を模倣したニューヨーク版クリスタル・パレス「水晶宮」(図5)に隣接して木製の高さ96mのラッティング展望塔と蒸気動力エレベータを設置、来場者数は110万人となった(図6)。

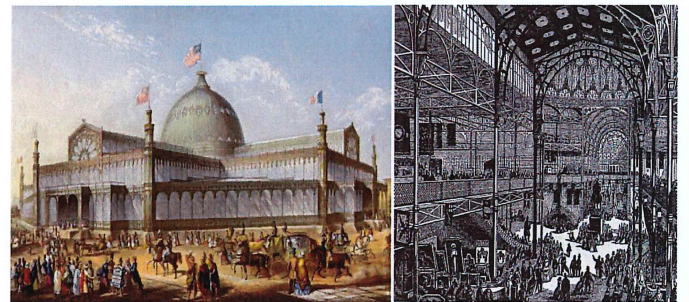


図5. ニューヨーク水晶宮の外観と内装

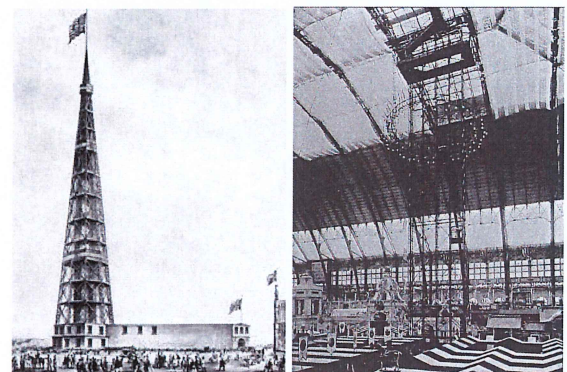


図6. ラッティング展望塔とエレベータ

1862年、ロンドン万博会場(図7)では電子計算機の試作器や木製の洗濯機が展示された(図8)。



図7. ロンドン万博会場と展示品

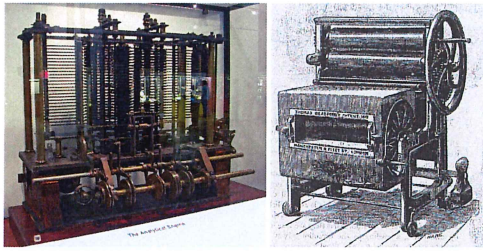


図 8. 電子計算機の試作品と洗濯機

1876年、アメリカ独立100周年を記念して開催されたフィラデルフィア万博では電話機やタイプライターなどが展示され、1000万人が来場した(図9)。

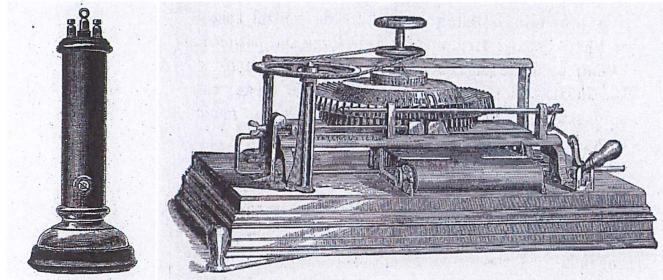


図 9. ベルの電話機とタイプライター

フランス革命の発端とされる「バスティーユ襲撃」(図10) 100周年となる1889年、パリ万博が開催された。



図 10. バスティーユ襲撃

万博記念モニュメントとして「エッフェル塔」が造られた(図11)。エッフェル塔にはエレベータが設置され、蓄音機(図12)やガソリン自動車(図13)も展示された。エッフェル塔は元々、万博終了後に解体予定であった。

エッフェル塔に対抗しようと1893年、シカゴ万博が開催され、世界初の巨大観覧車が造られた(図14)。

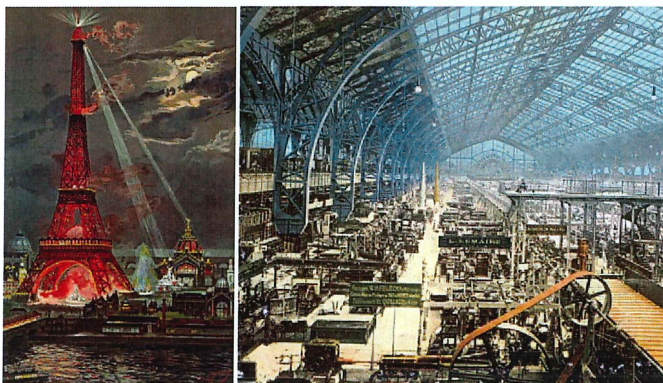


図 11. エッフェル塔と万博会場

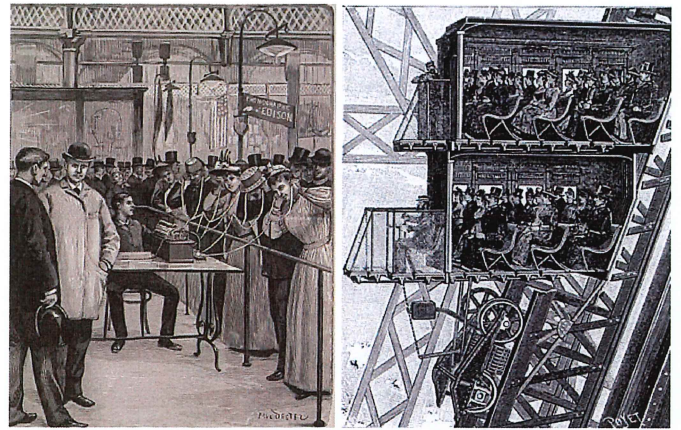


図 12. エジソンの蓄音機とオーチスのエレベータ

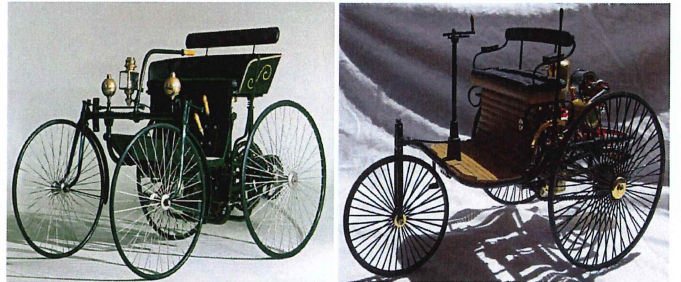


図 13. ダイムラーとベンツのガソリン自動車

高さ80m、60台のゴンドラ付の壮大なデザインだったが風邪の影響を受けやすく安全面から解体された。

1933年のシカゴ万博ではロボット“Elektro”(図15)が登場し、人々はロボットが動く未来にワクワクしたが、既にAIロボットが稼働する時代となった。



図 14. フェリスの大観覧車



図 15. Elektro

1970年に大阪万博が開催、携帯電話が初披露され“月の石”は1人5秒間の閲覧制限がされ、来場者が6421万人と大盛況に終わったが、今後、人類は「万博」にどのような未来を期待し、感動するのであろうか(図16)。

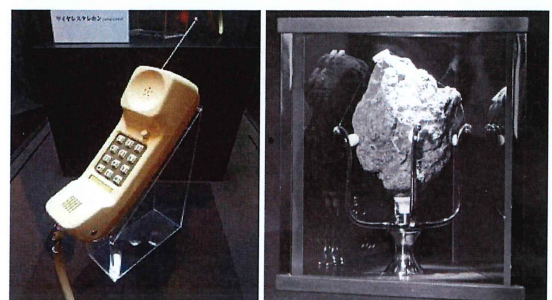


図 16. モバイルホンと月の石